



## 喜多埜

## 山本勘助と網敷天神さま

今から約四百五十年前の九月十日。戦国時代史上有数の激戦であった、川中島の戦い(八幡原の戦い)がありました。

この戦いで討ち死にした山本勘助は実在が不確かな人物ながら、その存在感は戦国時代の軍師五指に入り、平成十九年の大河ドラマ『風林火山』でも内野聖陽さんが演じられたのは記憶に新しいところかと思えます。

その山本勘助ですが、実は**信奉していた神さまが、網敷天神さまであった**事はあまり知られていません。現在、静岡県の**丘路八幡宮**には、山本勘助が流浪の時に、常に携えていた厨子があり、その中に木像の網敷天神坐像があります。(現在も丘路八幡宮の神像としてお祀りされています) この時代、中部地方には網敷天神さまを信奉する人々が多かったようで、武田信玄の実弟で影武者で有名な、**武田道遙軒信廉**は高い画技で網敷天神像を描いており、また**豊臣秀吉正室 北政所おね**は、出家後の高台院に高台院天満宮を創建し、網敷天神をお祀りされています。戦国時代の動乱を生き抜いた人々にとって、網敷天神さまは**精神的な支柱**であったのかもしれない。

## 中秋の明月

今月三十日は中秋の明月です。梅田・茶屋町は与謝蕪村が「**月は東に 日は西に**」と詠んだ月の名所でもあり、路傍に生える萩の風情と相まって、月に所縁のある地でもありました。この日には、お団子と小芋をお供えし、月を愛でて、**秋の恵みに感謝**しましょう。

## 神社豆知識「玉砂利」

神社の参道には玉砂利が敷かれているところが多くあります。参道になくても、社殿廻りなどに敷かれているなど、**神社らしい風景**の一つといえます。

この玉砂利ですが、何の為に敷かれているのかという事を明確に示した文献は殆どありません。故に外国人観光客の方などは、何故わざわざ歩きにくくしているのかと不思議に思われるそうです。

一説には、**古代の宮殿の廻りには砂利が敷き詰められ、不審者が近寄れば音がして分かる**よう敷いた**防犯上**のものが由縁であるとか古墳の墓石のように、**土留めの為**という説、清らかな小川を意識し、玉砂利の参道を歩む事で、次第に**清められていく**という心を表わしたものであるなど、多くの説があります。何分にも古代の日本人にとっては、**あつて当たり前**という感覚であった為、正確なところは分かりません。

**伊勢の神宮**では、三重県宮川上流の**白石**を用いる事が、寛正三年(一四六二)の記録に残っており、既に**室町時代の段階**で、神社には玉砂利を敷くものとされていた事がわかります。また「**玉**」は「**霊**」であり、神域にある砂利には神々の御稜威が宿るものとして考えられていたようで、赤ちゃんの**生後百日の御祝**の時に、氏神さまの境内から玉砂利を一つ持ち帰り(後に感謝を込めて返還するのが作法)、それを赤ちゃんに噛ませる仕草をする事で、健康な歯になりますようにという願掛けをする「**歯固め**」の信仰にも玉砂利が用いられるなど、神域の玉砂利には**神々のチカラ**が宿るものと考えられていたようです。

由縁は分かりませんが、玉砂利を歩む道は古代の日本人も歩んできた、**祈りの道**である事は間違いないようです。

## 神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、  
au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀知

